



第七十一号

# 会報浄土真宗太陽の会

## 「法要中止のお知らせ」

年明け前から中国の都市にて突如として始まった新型コロナウイルスという未知なる病原体、グローバル化の波に乗り、あっという間に世界中で蔓延する事態となりました。この未知なるウイルスは芸能人や有名女優の命を奪い、世界中を数ヶ月で暗黒の世界に変えてしまいました。

皆様方におかれましても苦しさや不安感に包まれていられる事と存じます。当会におきましても法要を自粛し、わずかに執り行われるご法事のみとなっております。命ある限り法要は僧侶単独でも開催致しますのでお参りに来られない方でもどうぞご安心下さい。また法要再開の折にはご連絡致しますので何卒、今しばらくお待ち頂ければと思う次第です。



## 「疑心暗鬼」

私の自坊(実家)は寛永十九年頃に建立されたと聞いております。当時は「寛永の大飢饉」という大災害・大恐慌の時代です。干ばつや豪雨、異常気象に家畜伝染病、飢餓そして人の疫病。そんな中、多くの方々がお亡くなりになられ、遠方の大寺院の出張所として開山されたと伝えられております。

この度のコロナショックにおいて過去の先人達に習い、私たちはこの苦しい状況を「共に」乗り越えていかななくてはなりません。マスクを採す日々・非常事態宣言・外出自粛・毎夜、更新される感染者の数・死亡者数。世界中が目に見えない病原体の恐怖に怯えている事でしょう。家族を(自分を)守る為に今できることは何か?を真剣に考えた事と思えます。しかしながら、私たちの心はとて弱く壊れやすいものです。そんな時、私た

ちの心の中の不安は「鬼」を生み出します。互いを疑い、買占め、誹謗中傷、自粛警察、この鬼の自分だけが助かりたいという欲望はある意味ウイルスよりも強敵です。私たちは試されていると言えるでしょう。

皆様におかれましては自分が鬼になっていないか、墓前の身近な先人達にそして阿弥陀さまに問うてみて下さい。そして思い出して下さい。私の心に阿弥陀さまが、仏となられた大切な家族が、愛しい人が常に呼びかけてこの私に寄り添っている事を。決して見捨てない寄り処は常に身近にあるのです。



太陽の会 釋 寛之 合掌

## 「令和初めての桜満開」

令和二年の四月上旬、今年もきれいな花を咲かせました。新型コロナウイルスの感染拡大防止で今年はせつかくの花見も自粛されたという会員様も多かったのではないのでしょうか。この一年に一回だけのイベントを待ち遠しく思われていた方には残念です。しかし、お参りにこられた方は青空に映える桜の花を眺めて春の訪れを少しだけ味わっていただけたのではないのでしょうか。来年は、平常に戻りもつと多くの方にこの満開の桜を味わって頂ければと思います。



## 「花まつり」

毎年恒例となりました「花まつり」を四月六日(月)から十二日(日)の七日間実施させていただきました。「花まつり」とは、灌仏会とも言ってお釈迦様の誕生を祝う仏教行事です。クリスマスは、イエス・キリストの生誕をお祝いする行事ですので、その仏教版と言った方が分かり易いでしょうか。日本

ではクリスマスの方  
が認知されています  
ので、最近はじまった  
行事なのと思われる  
方もいらつしやるで  
しょうが、その起源は  
古く奈良時代に書か  
れた「日本書紀」にも記述があるくらい  
古くから行われて  
います。お釈迦様とは、  
仏教の悟りをひらき私たちに説いてくだ  
さった方で今から二千五百年前に現在の  
ネパールの南ルンビニという町で国を統  
治していたシャーカーヤ族の王子として誕



生されました。当時の王のシュツドナーと、王妃のマーヤーの間に生まれシッダールタと名付けられ、王子として成長していきましました。ところが、成長するにつれ人生の真実や無情、苦悩などに思いを巡らし二十九歳の時、全ての地位を捨て修行の旅路に出られます。その後悟りを開かれ仏教の教えを広められます。お釈迦様の死後、インド、中国、日本と仏教は三国伝来して私たちの住む日本にもその教えは広く広まりました。花まつりに甘茶をかけるのは、お釈迦様が生まれた時にそれを喜んだ水を守護する龍が甘露の雨を降らせたい言伝えに由来しています。



## 「春季彼岸会 合同追悼法要」

令和二年三月二十一日(土)太陽の会において春季彼岸会 合同追悼法要が執り行われました。例年でしたら多くの会員様と彼岸のお経をお唱えさせていただくところですが、今年はコロナウイルスの感染拡大防止から僧侶のみでの読経という形で行わせていただきました。暑さ寒さも彼岸までというように冬の寒さも和らぎ春目前という穏やかな気候の中、誰もいない本堂でのお勤めはいささか寂しくもありましたが、いつもの春季彼岸会のように勤めさせていただきました。コロナウイルス感染の拡大が広がる中ではありますが、今はじっと我慢して次のお彼岸頃には、また多くの会員様と共にお勤めさせていただきたいと思えます。

闇の夜の月の光のありがたさはわからないけど太陽の光は大きすぎてわからない  
雨の日の傘のありがたさはわかるけど  
屋根のご恩は大きすぎてわからない

合掌

## 「不安な気持ちの解消法」

せつかくの過ごしやすい気候が続くのに、コロナ禍で皆さんのストレスも大きくなっているのではないのでしょうか。



「サイエンス」という化学雑誌に不安遺伝子・セロトニンという神経伝達物質を調整する遺伝子の数を二十九カ国で調べた結果、不安遺伝子が一番多いのは日本人だと言う事が掲載されています。仏教は今現代に生きる人たちにとつての道しるべを残してくれています。まずは、不安の理由は何なのか自分の感情を受け入れ、次に何故そう思うのかを客観的な視点から考えます。無常の世界でそれは長く続かない事、過去から未来を不安に思いつぎることなく今出来る事を考え実行することで、その不安は少しずつ解消されていくでしょう。葬式仏教などと揶揄されることもあります、仏教は今を幸せに生きるヒントがたくさんあるのです。

## 「歎異抄を読む」 たんにしよう

『歎異抄』は、親鸞聖人が亡くなった後、門弟の間に真実の信心に背く異議が生じたことから、聖人から口伝を受けた著者が、同心の行者の不審を除くために著した親鸞聖人の言語録です。

弥陀の本願には、老少・善惡のひとをえらばれず、

ただ信心を要とすとしるべし。



釋蓮如(『歎異抄』第一条)

どんな人でもどんな状況にあっても  
決して見捨てない

阿弥陀さまは、老人も若者も、善人も悪人も、どんな人でも分け隔てなく慈しんでくださる。若い時も老いた時も、善いことをしている時も悪いことをしている時も、どんな時でも見捨てず慈しんでくださる。そんな阿弥陀さまの大きな心に出遇わせていただく。

## 「月のことば」 一月～四月

太陽の会では、館内入口・本堂入口に「月のことば」を掲載させて頂いております。お経は難しいと思われる方もいらっしゃると思いますが、身近なやさしいお言葉として皆様のお心で味わって頂けたら幸いです。

### 【一月のことば】

目の前の幸せは見えるが  
背後のおかげさまが見えない私

「お寺の掲示板」より

目の前にある幸せを感じるのはたやすい事だが、その裏にある阿弥陀さまの支えは感じる事ができない自分勝手な私である。

### 【二月のことば】

悲しみの深さの中に  
真のよきこびがある

「仏教から真宗へ」より

悲しみの深さとはどのようなものなのでしょう。悲しみに向かい合い、その意味を真に見つめることだと感じます。

深い悲しみの闇にある時にこそ阿弥陀さまの光明は真の喜びとなるのです。

### 【三月のことば】

本当のものがわからないと  
本当でないものを本当にする

「信仰についての対話」より

如来の知恵の光明に照らされることによつて、闇のなかにいる私に気づかされます。人間の分別・知識によつては、真実の世界は見えてきません。如来の光明・名号のはたらきによつて、眞実信心を獲得することができのです。

### 【四月のことば】

お念仏というのは  
つまり自分が

自分に対話する道

「曾我量深師」より

お念仏の教えを自分のこととして常に耳を傾けていく、そのことが自分に対話する道を生きることに通じるのではないかと思ひます。

## 浄土真宗 太陽の会

### 令和二年 行事予定

○孟蘭盆会【中止】

○秋季彼岸会 合同追悼法要【中止】

○報恩講 合同追悼法要【中止】

【現在発生している新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、**記載の法要は中止にさせていただきます。**】

○春季彼岸会 合同追悼法要

○合同追悼法要

右記の2つの法要は僧侶のみで執行いたしました。

※法要再開の見通しが立ちましたら改めてご案内致します。ご法事、ご法事の会場貸の予約は承っております。なお法要室は宗旨・宗派を問わずご利用いただけます。また、入館の際にはコロナウイルス感染防止の為、マスクをしての入館をお願い致します。(法務担当者)

